

2013

第23回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成25年7月29日(月)～8月9日(金)



守谷市

目 次

● 守谷市長あいさつ	1
● 守谷市国際交流協会会長あいさつ	2
● 第 23 回守谷市青少年海外派遣団員名簿	3
● 事前・事後研修日程	4
● 海外派遣日程	5
● ホームステイスケジュール(マインブルク市日程)	6
● ホストファミリー名簿	7
● ドイツ・マインブルク市周辺地図	8
● 思い出の日記	9～17
● 派遣団員報告書	18～34
● フェアウェルパーティープログラム	35～37
● マインブルクの新聞に掲載された記事	38～43
● 編集後記	44



夢に向かって

守谷市長 会田 真一

第23回守谷市青少年海外派遣も、多くの皆様の御協力により無事に終了いたしました。マインブルク市への青少年の派遣は、この夏で7回目となりました。ライザー市長はじめ、派遣団を快く迎えてくださったマインブルク市民の皆様、また、ホストファミリーの中には以前にも団員を受入れてくださった方も見受けられ、いつもと変わらぬあたたかいおもてなしに、心より感謝の意を表したいと思います。

今回、参加された皆さんは、ホストファミリーの優しさ、温かさに包まれて有意義な日々を過ごし、マインブルク市民の心からの歓迎に触れ、多くの人たちへの感謝の気持ち、意思を伝え合うことの喜びと大切さ、そして言語を越えた人の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、ドイツの数々の歴史的建造物を見る中で歴史の重みを実感できたかと思います。

団員の皆さんにはこの12日間を通じて得た貴重な体験をいかし、自らの夢の実現に向かって歩いていてもらいたいと思います。そして、今後もホストファミリーとの交流を大切にいただき、異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが、本事業を実施するにあたり御協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げます、御挨拶といたします。



友好の架け橋へ

守谷市国際交流協会会長 小川 一成

第23回守谷市青少年海外派遣事業が、無事成功のうちに終わられたことをお喜び申し上げます。

平成2年にこの事業が始まって以来、守谷市国際交流協会としても全面的に支援、協力してまいりました。それは、当協会が目標とする市民の交流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として、何事も素直に順応できる10代にヨーロッパの異文化や大自然、それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは、このうえない財産となったことでしょう。今回、マインブルク市を訪問した皆さんは市民の気持ちに触れ、ドイツという国に好印象を抱くとともに、お世話になったホストファミリーに対し、感謝の気持ちとともに帰国したことと思います。是非、マインブルク市民の方々が来日する際には、守谷市のホストファミリーに参加していただき、イベント等にも参加をお願いしたいと考えております。

平成25年度は当協会も発足して25周年を迎えることができました。10月1日から7日にかけて当協会のメンバーがマインブルク市を訪れ、市長他、マインブルク市民と交流を深めてまいりました。今後も異文化体験の機会を増やし、より広い視野をもって物事を捉え、考えることのできる素晴らしい好機を提供するお手伝いを続けてまいります。

最後になりましたが、守谷市と姉妹都市マインブルク市との交流が益々発展することを祈念申し上げ、御挨拶と致します。

第23回守谷市青少年海外派遣団員名簿

●団員

氏 名	学 校 名	学 年
うめはら けいご 梅原 佳吾	茨城県立並木中等教育学校	高2
わたなべ こうき 渡邊 公輝	茗溪学園中学校	中3
ふくおか ゆうき 福岡 佑基	茨城県立並木中等教育学校	中2
こすが ひろき 小菅 寛生	守谷市立守谷中学校	中1
たなか わかこ 田中 稚子	専修大学松戸高等学校	高2
なかむら くるみ 中村 久留実	千葉県立柏南高等学校	高2
はったんだ ふうこ 八反田 風子	茨城県立藤代高等学校	高2
いのうえ ななみ 井上 菜々美	茨城県立守谷高等学校	高1
ふじもり りお 藤森 里桜	茨城県立土浦第一高等学校	高1
みやけ ゆうな 三宅 優奈	茗溪学園中学校	中3
よしかわ ゆい 吉川 優依	守谷市立御所ヶ丘中学校	中3
こじま かえで 小島 かえで	江戸川学園取手中学校	中2

●引率者

氏 名	所 属
わたなべ ゆういち 渡邊 雄一	守谷市国際交流協会副会長
いいじま かすみ 飯島 和美	守谷市役所生活経済部市民協働推進課

事前・事後研修日程

月 日	時 間	内 容	場 所
6月15日 (土)	13:30~13:40	事務連絡	市役所 大会議室
	13:40~15:00	自己紹介・日本や守谷を紹介しよう！	
	15:00~15:10	休憩	
	15:10~16:30	引率者との面接・DVD鑑賞	↓
	16:30~17:00	市役所~いこいの郷へ移動（公用車）	
	17:00~18:20	入浴	
	18:20~19:00	夕食	いこいの郷 (宿泊)
	19:00~21:00	フェアウェルパーティーについて	
	21:00~22:00	ミーティング	
6月16日 (日)	7:30 ~ 8:30	朝食	いこいの郷
	8:30 ~ 9:00	いこいの郷~市役所へ移動（公用車）	
	9:00 ~ 9:50	ドイツを知ろう！（生活習慣・会話など）	
	9:50 ~ 10:00	休憩	↓ 市役所 大会議室
	10:00~12:00	守谷市国際交流協会会員（派遣経験者）との懇談	
	12:00~13:00	昼食	
	13:00~15:00	フェアウェルパーティーについて	
6月23日 (日)	13:30~13:40	事務連絡	国際交流 研修センター
	13:40~14:50	ドイツを知ろう！（生活習慣・会話など）	
	14:50~15:00	休憩	
	15:00~17:00	フェアウェルパーティーについて	
7月7日 (日)	10:00~12:00	ダンス練習	国際交流 研修センター
	13:30~13:40	事務連絡	
	13:40~14:50	ドイツを知ろう！（食習慣）	
	14:50~15:00	休憩	
	15:00~17:00	フェアウェルパーティーについて	
7月21日 (日)	9:30 ~ 9:40	事務連絡	国際交流 研修センター
	9:40 ~ 12:00	ドイツを知ろう！（まとめ）	
	12:00~13:00	昼食	
	13:00~16:50	フェアウェルパーティーについて	
	16:50~17:00	事務連絡	
8月17日 (土)	9:30 ~ 10:20	反省会	国際交流 研修センター
	10:20~10:30	休憩	
	10:30~11:00	報告書資料確認	
	11:00~11:30	解散式	

海外派遣日程

日	月日（曜）	発着地/滞在地名	発着 現地時間	交通機関	行 程
1	7月29日 （月）	守谷市役所 守谷市役所 発 成田空港 発	07：30 08：00 11：55	専用バス AF275	壮行会 専用バスにて成田空港へ出発 空路、フランス（パリ）へ
		パリ 着	17：15	専用バス	観光後、ホテルへ 《パリ 泊》
2	7月30日 （火）	パリ	終 日	専用バス	パリ市内観光 オルセー美術館、エッフェル塔、凱旋門、 シャンゼリゼ通り、ノートルダム寺院、 コンコルド広場、観光後、ホテルへ 《パリ 泊》
3	7月31日 （水）	パリ パリ 発 ミュンヘン 着	15：50 17：20	専用バス AF1822 専用バス	半日、ベルサイユ宮殿半日観光 空路、ドイツ（ミュンヘン）へ 到着後、ホテルへ 《ミュンヘン 泊》
4	8月1日 （木）	ミュンヘン	終 日	専用バス	終日、ミュンヘン市内研修 マリエンプラッツ、イギリス庭園、バー バリアンフィルムスタジオ、アルテピナ コテーク美術館 《ミュンヘン 泊》
5	8月2日 （金）	ミュンヘン ミュンヘン 発 マインブルク 着	10：00 11：00	専用バス	マインブルクへ グリース広場にてホストファミリーと合流 《ホームステイ》
6 ～ 10	8月3日 （土） ～ 8月7日 （水）	マインブルク 滞在	終 日		ホームステイにて交換学習 ☆ 8月7日の夜は フェアウェルパーティー 《ホームステイ》
11	8月8日 （木）	マインブルク マインブルク 発 ミュンヘン 着 ミュンヘン 発 パリ 着 パリ 発	早 朝 06：35 07：35 09：35 11：35 13：30	専用バス AF1423 AF276	空港へ 空路、フランス（パリ）へ 空路、成田へ 《機内 泊》
12	8月9日 （金）	…日付変更線通過…			
		成田 着 成田 発 守谷市役所 着	09：00 10：00 11：30 12：00	専用バス	成田到着後、専用バスで市役所へ 市役所到着後、帰国報告会 解散

ホームステイスケジュール

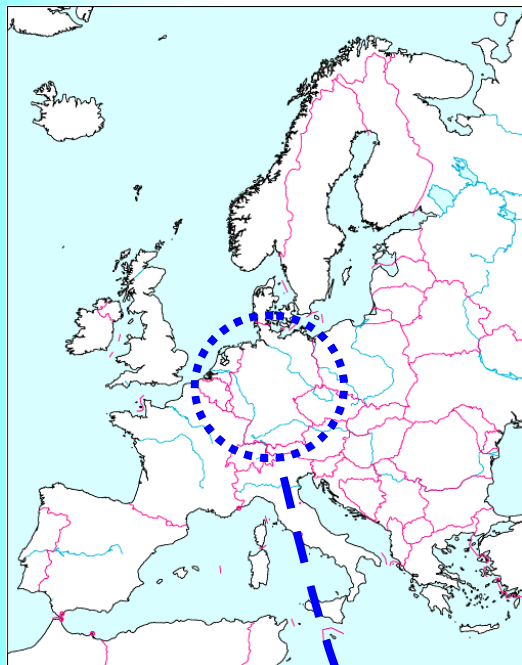
月日（曜）	時 間	行 程
8月2日 （金）	11：00～ 11：30～ 12：00～ 18：00～	マインブルク市 Griesplatz 広場へ到着 市長との対面式（大室氏通訳） ホストファミリーとの対面式 ウェルカムパーティー（BBQ） 終了後、各ホストファミリー宅へ
8月3日 （土）	終日	一日ホストファミリーと過ごす
8月4日 （日）	終日	一日ホストファミリーと過ごす
8月5日 （月）	7：00～18：00	ノイシュヴァンシュタイン城 シュタインガーデン ヴィース巡礼教会
8月6日 （火）	終日	一日ホストファミリーと過ごす
8月7日 （水）	8：00～13：00 15：00～ 17：00～ 18：30～	ケールハイル，ヴェルテンブルグ修道院 フェアウェルパーティ準備 フェアウェルパーティ フェアウェルディナー
8月8日 （木）	6：00～ 6：35～	マインブルク市 Griesplatz 広場 ミュンヘン空港へ出発



ホストファミリー名簿

団員氏名	ホストファミリー
うめはら けいご 梅原 佳吾	Steiger シュタイガー 家族
わたなべ こうき 渡邊 公輝	Sentjurc セントユールク 家族
ふくおか ゆうき 福岡 佑基	Kollmannsperger コルマンスペルガー 家族
こすが ひろき 小菅 寛生	Hundsdoerfer フンツドルファー 家族
たなか わかこ 田中 稚子	Wagner ワグナー 家族
なかむら くるみ 中村 久留実 みやけ ゆうな 三宅 優奈	Bauer バウアー 家族
はったんだ ふうこ 八反田 風子	Selmeier ゼルマイアー 家族
いのうえ ななみ 井上 菜々美	Neumann ノイマン 家族
ふじもり りお 藤森 里桜	Wilke ウィルケ 家族
よしかわ ゆい 吉川 優依	Oberstötter オーバーシュテッター 家族
こじま かえで 小島 かえで	Hofbauer ホーフバウアー 家族
わたなべ ゆういち 渡邊 雄一 いいじま かすみ 飯島 和美	Schönhuber シェーンフーバー 家族

ドイツ・マインブルク周辺地図



ドイツ連邦共和国
Bundesrepublik
Deutschland

面積 約35万7,121 km²
人口 約8,052万人(2012年末現在)
首都 ベルリン (Berlin)



バイエルン州
マインブルク市
Stadt Mainburg

面積 約61.65 km²
人口 14,215人(2012年末現在)



思い出の日記



宿泊研修 6月15日, 16日

宿泊研修一日目, 初めての集まりで少しみんな緊張していました。自己紹介や各自の課題発表が終わり, 引率者との面接を一人一人行っている間, フェアウェルパーティーについて少し話し合いました。みんな少しずつでしたが, 意見を出し合い行う事を決めました。そして, 市役所からいこいの郷へ移動し, 入浴, 夕食, そして, 話し合い。一日がとても忙しく感じました。



宿泊研修二日目, 朝食を食べ市役所へ移動し, ドイツの挨拶などの基本的なことを教えてもらいました。そして, その後は守谷市国際交流協会会員の方たちからとても参考になる話を聞きました。昼食を食べ, フェアウェルパーティーで披露するダンスの練習をしました。ダンスは少し難しかったけど, みんなで頑張りました。(井上菜々美)

事前研修 6月23日, 7月7日, 21日

6月23日, フェアウェルパーティーのダンスの曲, High School musical の We're all in this together がとても難しい。ダンス初心者自分にはとても難しく感じるが, みんなが教えてくれるから安心。仕上がりがとても楽しみ!!



7月7日, 今日は研修が始まる2時間前にみんなが集まってダンスの練習をした。みんなが集中して練習したから仕上がり早い。今日の研修では, 国際交流員のヨークさんから教えてもらったドイツ語をテストした。みんな合格できたので, ドイツに行ってもきちんと使えそうだ。



7月21日, 最後の事前研修, 今日はフェアウェルパーティーの練習を最初から最後まで通してやった。全体的にまとまっていて, 良い感じ。これなら, みんなが感動できるフェアウェルパーティーになるはず!! (小島かえで)



7月29日 壮行会～成田空港

ついにこの時がきました！！待ちに待った，フランス，ドイツへの出発です。

みなさん，スーツケースの重量は大丈夫ですかー??

成田空港からパリ空港まで約12時間！とても長いですが，これからの観光やホームステイに期待と不安で胸を躍らせながら・・・いってきまーす！！
(三宅優奈)



7月30日(パリ市内観光) フランス

オルセー美術館では有名なゴッホの絵に始まり，彫刻や家具など多くの作品を鑑賞しました。宗教画がとても美しく印象に残っています。

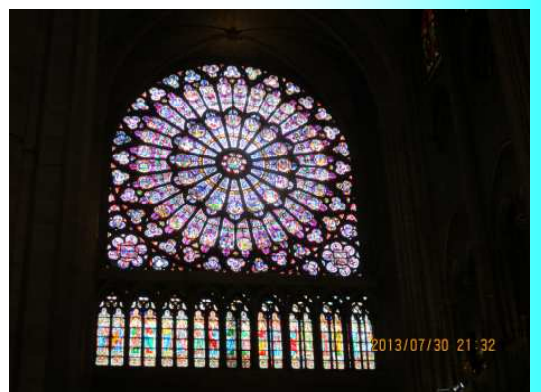
凱旋門は上まで螺旋階段で登りました。その階段がとても長く，途中に踊り場もないので運動不足の私にはこたえました。登った上からはパリが一望でき，最高でした。



ノートルダム寺院では，その建築の細かさに圧倒されました。中のステンドグラスも素晴らしく，カメラを通すとその美しさが半減されてしまうのが残念でした。日本のカテドラルとは比べものになりません。やはり本場は違うなと思いました。コンコルド広場では，ここでルイ16世やマリーアントワネットが処刑されたのかと思うと歴史を感じました。横にある公園では多くの人が本を読んだり犬

と戯れたりしており，文化の違いを感じました。パリは歴史がある良き街でした。多くの人を受け入れているだけあって自由な街でした。ただ，道路にはごみが落ちていて治安は悪いです。少しがさつな感じもしましたが，そんな所もまた私は気に入りました。いつか必ず訪れたいです。

(田中稚子)



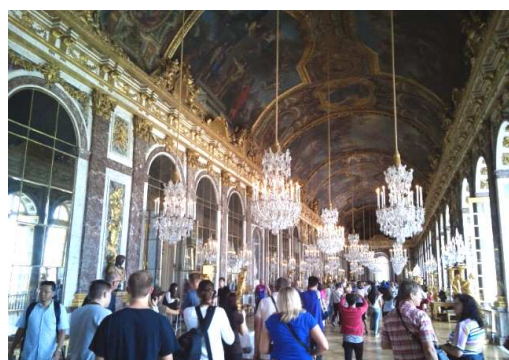
7月31日 パリ市内観光(パリ～ミュンヘン)



私たちはフランス観光最後の場所ベルサイユ宮殿へ向かいました。私がバスを降りて見たベルサイユ宮殿はとても壮大なものでした。たくさんの観光客が並んでいましたが、団体予約だったのですぐに中に入ることができました。



ガイドさんに案内され最初にヘラクレスの間、豊穡の女神の間、ヴィーナスの間などたくさんの部屋があり、どの部屋の天井にもとても美しく幻想的な絵がありました。私の中で一番印象に残ったのは鏡の回廊です。とても長い通路の天井にはルイ14世の歴史が描かれた絵画がありました。この回廊は王の広間と王妃の広間を結ぶ通路でもあり、催し物や結婚式にも使用されていたようです。また、鏡の回廊からは宮殿の庭園を見ることができました。そこからの景色は本当に綺麗なものでした。その後も王の寝室、王妃の寝室と一部屋一部屋違った独特な雰囲気がありました。私たちはベルサイユ宮殿を出てドイツへと向かいました。



ドイツはフランスとはまた違った建築物や街並みでとても自然豊かな場所でした。ホテルに着くと夕食がすでに用意されていてドイツの食事は本当においしかったです！！（八反田風子）



8月1日 ミュンヘン(市内観光)ドイツ

四日目に観光したミュンヘンでは、歴史的建造物のほかに近代的な建物も目につきました。また、自然に恵まれた環境先進国だなと感じました。

最初に訪れたイギリス庭園も自然にあふれた公園でした。



素敵な場所で多くの人が憩いの場として利用していました。公園での散歩の後、世界六大美術館の一つアルテ・ピナコテークへ向かいました。ルネッサンス時代の宗教画、バロック時代の貴族文化、市民文化、ロココ調などの作品を鑑賞し、オルセー美術館の印象派と両方を見ることを通して芸術の歴史を学びました。



その後、市役所の仕掛け時計を見ました。お城のような外観の市役所に、私はとても驚きました。市役所が観光名所というのは面白いことだと思います。市役所の地下でドイツ料理を食べた後、ミュンヘンの映画スタジオを見学し、映画の仕組みセット等の説明を受けました。興味深い話を聞くことが出来てよ

かったです。

ミュンヘンは中世と近世が、自然と工業がまじり合う興味深い町です。今回の観光でもその調和を感じることが出来ました。（藤森里桜）



8月2日 ミュンヘン～マインブルク

ミュンヘンからマインブルクに移る際、私たちは緊張していた。ついに待ちに待ったホストファミリーに会うからだ。マインブルクに到着すると、ピンク、黄色、青のメルヘンな建物ばかりでとても可愛らしかった。着いてすぐ私たちはドキドキした気持ちでマインブルクの市役所に向かった。そして、副市長さんの仲介の下、それぞれの家のホストファミリーに会った。わたしの所はお父さんと娘のダニエラが来てくれた。すごく優しく迎えてくれて嬉しかった。そして、これからどんな生活が体験できるのだろうとワクワクした。（中村久留実）



8月3日～5日 ホームステイ

8月3日、ホップの博物館に連れていてもらった。そもそも、このマインブルクと守谷の交流の発端はこのホップであったため、とても興味深いものであった。博物館の外には実際にホップを栽培したものがあり、2mを超えるホップの苗を体感することができた。中に入るとホップの栽培工程、ルーツなどが多くの展示品やモニュメントから伺えた。特に重要なことはホップを作ることが、マインブルク



クの文化的な一部を担っているということである。各地で異なった地ビールを製造して、多種多様の文化をドイツで形成していったのはそれが理由であるだろう。その後、近くのレストランに行った。レストランは開放的な場所であった。昼間からビールを飲んで語りあっている方々が多く見られた。食後、教会に行き、その壮大な造りに圧倒された。夕方に市内を共に散歩した。赤レンガで統一された街並みは美しく、おとぎ話のような場所であった。

8月4日、隣町のプールに連れて行ってもらった。様子は日本とほぼ同じだが、ウオータースライダーに年齢制限がないことと他の陸上スポーツができるような広い場所が付属していることが異なっていた。

昼ごろ、ホストファザーが監督しているサッカーチームの試合を観に行った。試合した場所は広い天然芝で、ビールなどを販売する売店も付属していた。観に来た大人の観客から5ユーロを徴収していたので、それを運営に当てているのであろう。

夜にはビアガーデンに行った。他のジュースやコーヒーと同じ、または、それ以下の値段で多くの種類のビールが売られていた。特徴的なことは、このビアガーデンが閉まるのが午後10時だったことである。



8月5日、マインブルクの方々とノイシュバシュタイン城に行った。ノイシュバシュタイン城はルードリヒ2世が都を離れ、閉鎖的に建てた城である。城内には伝統的な趣向が施されていた。特に局座の間では数えきれないほど多くの蝋燭を灯す台があり、華やかなものであった。外は様々なコースがあり、あらゆる角度から城を眺めることができるようになっている。(梅原佳吾)



8月6日～7日 ホームステイ

8月6日、アウディの博物館に連れて行ってもらいました。歴史的にも貴重な車やバイクがたくさん展示されていました。その中でも僕は実際にレースで使われ、傷だらけのレースカーに目をひかれました。その車たちからは何とも言えない覇気のようなものを感じ、目を奪われました。



8月7日、ドイツ最終日、午前中はみんなでケールハイムへ行きました。船乗りはドイツの風と自然を感じることができ、ヴェルテンブルク修道院の内装は厳かな雰囲気漂わせていました。

午後はフェアウェルパーティーで、ダンスやゲーム、歌、サンキューメッセージを披露しました。ダンスはとても好評で、ゲームの雑巾が

けレースやアルゴリズム行進は、マインブルクの人と一緒に楽しみました。サンキューメッセージのところではみんな泣いてしまい、最後の歌はあまり歌うことができませんでした。食後は音楽学校の校庭でサッカーやバレーボールをして、みんなで楽しく遊びました。マインブルク最後の夜はホストファミリーと一番仲良くなることができたところで、終わってしまいました。(渡邊公輝)



8月8日 マインブルク～ミュンヘン～パリ

ホストファミリーとの別れの日、僕たちは早朝6時、最初にマインブルクに来たときと同じグリース広場に集合した。みんなホストファミリーと写真を撮ったり、別れを惜しんで泣いたりしている人、ホストファミリーと最後の話をしてハグをしている人もいた。さらには、マインブルクの景色を最後だからと写真に残している人もいた。



僕が一番驚いたのは、このグリース広場に Moriya →9381 km という標識があったことだ。そして、個人で別れを惜しみながらバスに乗り込んだ。帰りのバスの中では、みんなホストファミリーについての話題で盛り上がったり、この事業に参加したなかで一番楽しかったのは何かという話をしたり、みんなそれぞれこの事業に対する様々な話題で盛り上がっていた。とはいえ、朝6時に集合だったので、そ

こまでテンションが高いわけもなく、ホストファミリーとの別れの後ということもあって悲しみに沈んでいるような人もいた。

ミュンヘンの空港について、パリへ向かう飛行機の中では、とても元気とはいえないムードだった。

パリへ着いたときには、もうこの事業は終わってしまうという実感がわいてきた。(福岡佑基)



8月9日 成田空港～帰国報告会

パリから成田空港の12時間は早く感じました。チェックインしたときチケットに書かれていた席番号は10から40番台の人もいてみんなバラバラでした。そのことを知った添乗員の松岡さんがチェックインカウンターの人をお願いして、みんなの席をできるだけ近くにしてくれました。機内食は和食か洋食で選べましたが、日本食が恋しいのか和食を頼む人が多かったです。照り焼きチキン、味噌汁などもでて、とても美味しかったです。

成田空港に着いて外に出た時、ヨーロッパとは違う日本の暑さが待っていました。想像はしていたけれど少し驚きました。報告会では、初めの壮行会とは私達12人の雰囲気が違い、この研修で私たちは変わったんだなと感じました。(吉川優衣)



8月17日 事後研修

国際交流研修センターにて守谷市青少年海外派遣事業の事後研修がありました。9時30分からの反省会では渡邊さん、飯島さん、大平さん、ヨークさんの話があり、その後、休憩を挟んで報告書資料の確認をしました。11時30分に解散式も終わりました。

午後は北守谷祭りを手伝いました。僕は、ヨーヨーつりやフェイスペインティング、光るおもちゃ、ソフトドリンクなどの売り込みをしました。その後、ヨーヨーつりの担当をしました。（小菅寛生）



守谷からのプレゼント「大漁旗」



大漁旗は、昔は、海から帰る漁船が陸の人たちに大漁を知らせる合図の旗でした。遠くから見てもよく目立つよう、あるいは縁起を担ぐ目的で派手な色彩や大胆な構図で描かれることが多いです。現在は、新造船の船主へ祝いとして親戚や取引関係者から贈り物としても使われています。

今回、マインブルク市に送るために作成した大漁旗は、

太平洋に面している茨城県大洗町の染色工房で製作されました。

この染色工房は明治時代から続いており、茨城県伝統工芸士に指定されている職人の手作業で旗を作っています。また、こちらでは大相撲の国技館の入り口に飾られている力士旗の製作も行なっています。

絵柄は豊かな富を象徴する宝船を選びました。宝船は珊瑚、金銀、財宝を積み込んだ縁起良いものです。これからのマインブルク・守谷の両市の友好がより豊かに、実り多いものになるように願いを込めてこの絵柄を選びました。船の帆には両市の末永い友情を願い、「友好」と記しました。また、背景には日本の象徴としてしばしば使われる桜・富士山を選びました。鶴・亀は長寿と繁栄の象徴です。6月にユネスコ世界遺産に登録されたばかりの富士山はマインブルク市民の皆様をご案内したこともあります。その富士山に「守谷市」という文字を入れました。

旗の上には日本語でマインブルク市と書かれています。この旗が多くのマインブルクの皆様の目に触れ、両市の固い絆を感じていただけたら幸いです。

派遣団員報告書

梅原 佳吾

渡邊 公輝

福岡 佑基

小菅 寛生

田中 稚子

中村 久留実

八反田 風子

井上 菜々美

藤森 里桜

三宅 優奈

吉川 優依

小島 かえで

渡邊 雄一（団長）

飯島 和美（引率者）



異文化を知る。そしてこれから

茨城県立並木中等教育学校5年 梅原 佳吾

私はこの守谷市青少年海外派遣事業を通して、多くのことを学び、感じた。そのうえで大きく四つのことを得ることができた。

一つ目は、視野の広さである。この事業を通して私は様々なものを見た。フランスのパリでは、フランス革命時のコンゴルド広場とベルサイユ宮殿やナポレオンの時代の凱旋門とシャクレール寺院を観光。ドイツではルネサンス期の絵やドイツの映画撮影所、ノイシュバシュタイン城を観た。それだけでなく、パリもミュンヘンもマインブルクの街並みすべてが、特徴的で印象的であった。これらのようなものを通して、日本と他国の文化的な違いを認識することができた。また、そこに住む人々の考え方や風習の違いも知ることができた。

二つ目は、交流である。今事業で多くの人に会い、交流し学んできた。特にホームステイでは、同学年のファミリーしか英語でコミュニケーションが取れず、他の方とは言語の壁があった。しかし、言葉が通じなくとも伝えようとする意志さえあれば、理解でき分かり合えるのだと思った。また、それと同時にそれが難しいことでもあった。自分の気持ちが伝わらず焦燥感に駆られることもあった。だから、これからさらに言語を学び、もっと多くの異なった文化や考え方を持った人々と交流できるようになりたいと思った。

三つ目は、人との関わりである。今回のホームステイは、守谷とマインブルクが長年に渡って続けてきた交流の一部である。マインブルクの方々の寛容な態度と受け入れがあるからこそ、私は文化の違いを学ぶことができた。そして、彼らとずっと交流したいと思った。国境を越えた出会いとつながりを大切にしてこれから生きていきたい。

最後は感謝である。人は一人では生きることはいかない。誰かと協力しなければ生きていけないのだ。この企画も数多くの方々の尽力があったからこそ、私は多くのことを学び感じる事ができた。この気持ちを忘れずに私もいつか、後の時代の子に何かを残せるような人間になりたいと思った。





異文化体験と自分の課題

茗溪学園中学校3年 渡邊 公輝

海外派遣を終えて感じた「文化の違い」と「自分の課題」二つのことについて書きたいと思います。

ドイツと日本の文化の違いで一番感じたことは、ドイツの人はみんなフレンドリーだということです。みんなで行った美術館や飲食店などでは、館内の人や店員さんは日本ではありえないくらい明るく、フレンドリーに対応してくれました。日本では逆にきちんと対応する方が多いと思います。ホームステイ中もホストブラザーの友達に会ったとき、絶対「フレンドリーな握手」をしてくれました。初めて会った人なのに、なぜこんなにフレンドリーで welcome な感じなのかと不思議に思ったくらいです。日本人ももっと真似してもいいのではないかと思います。個人的な疑問ですがなぜ同じ人間であり、同じ地球という星に住んでいるのに、なぜこうした文化の違いが出るのか、今後調べていきたいと思います。

次に自分の課題だと思ったことは、英語力がまだまだ足りないということです。ホームステイ中、観光に行ったとき、ホストブラザーがドイツ語の説明を英語で訳してくれました。その時、だいたいの説明は理解できたものの、英単語が分からず完全に理解できないことがありました。僕と一つしか年の変わらないホストブラザーでさえ、自分の国の言葉のように英語を話していてカッコイイなと思いました。ドイツでは英語は将来のために、とても大事な教科だということも教えてくれました。もっと英語ができれば、もっとドイツを知ることができたのではないかと思います。これから、今以上に英語を勉強して、もしホームステイさせてくれた家族にまた会うことができれば、もっと会話をしてたくさんドイツのことを教えてもらいたいと思います。

今回の海外派遣ではホストファミリーと仲良くなることができ、「文化の違い」や「自分の課題」を見つけることもできました。

最後に今回の海外派遣を支援してくださった方々のおかげでとても充実した派遣となったことを感謝したいです。





惜しみながらの別れ

茨城県立並木中等教育学校 2年 福岡 佑基

僕にとってこの事業に参加した12日間はとても楽しい日々だったと思う。

パリに着いてまず思ったのは、日本とは違い道のまわりにあるビルが少ないということとまわりに山が全くなく、完全に平地だということだ。日本は山がまわりに多く建物が少ないところでは山ばかりが見えるが、パリではとにかく山はなく平地だった。これが日本とパリの最初に見たときの違いだ。しばらくしてホテルに着き、夕飯を食べた後に水を買うためにスーパーに行こうと外に出たら、もう午後8時だというのにまだ日本でいうと4時頃の明るさだったのだ。これには一番驚いた。時計の時間を直し忘れたかとも思った。そのときは、ただでさえ時差ぼけなのにこんなに明るかったら時間の感覚がなくなると思った。とはいえ、やはり長い時間飛行機に乗っていたので疲れていたのだろう、その日はやらなくてはいけなかったことを済ませてすぐに寝てしまった。

次の日はパリ市内を観光する日だった。僕はこの日を一番楽しみにしていたと言っても過言ではない。最初に僕たちはオルセー美術館に行った。一番印象に残ったのはミレーの落穂拾いで、教科書に載っていたので印象に残った。次に行ったのがコンコルド広場で、ここではまわりを囲んでいた銅像が印象に残った。その次は凱旋門に行った。僕はこの凱旋門がパリで一番印象に残った。なぜなら、よくパリの象徴として見たことがある凱旋門に登ることができたからだ。生で凱旋門を見ることができたうえに上部に登ってパリ市内を見渡せたのはよい経験になったと思う。そのあと昼食をレストランで食べた後、ノートルダム寺院に行った。ここではステンドグラスが印象に残った。最後にエッフェル塔にいてパリ市内の観光は終わった。

その次の日はベルサイユ宮殿の半日研修。特に鏡の間が印象に残った。庭園まで見て、その後昼食を食べてからミュンヘンへ移動。ミュンヘンではイギリス庭園、アルテピナコテーク美術館、バーバリアンフィルムスタジオを見学した。その中で一番印象に残ったのは、アルテピナコテーク美術館で見た、最後の審判だ。テレビなどで見たことはあっても実際に見たことがなかったので、印象深かった。

ミュンヘンからマインブルクにいて、そこからホームステイの楽しい6日間がはじまった。

僕はコルマンスペルガーさんの家にお世話になった。そのご家族の方たちと、6日間を過ごした。僕たちは一緒に卓球をしたり、テレビゲームをしたり、時には鍾乳洞に一緒に行った。また、プールに行って一緒に泳いだし、一番楽しくて印象に残ったのは一緒に湖に行って泳いだことだ。コルマンスペルガーさんのところの子供のアンドレアス君と湖でキャッチボールをしたこともよい思い出だ。彼らと生活するときは、僕の片言の英語では限界があったが、身振りを交えたら通じたのでそれがうれしかった。この事業はとても楽しく、そして勉強になったので、これからもこれを糧にしていきたい。





初ヨーロッパで学んだこと

守谷市立守谷中学校1年 小菅 寛生

行きの飛行機でいきなり買ったばかりの電子辞書をなくした僕は、青ざめました。でもホストファミリーはグーグルの翻訳機能を使って僕とコミュニケーションを図ってくれました。英語もドイツ語も話せない僕は本当に助かりました。でも、伝えたいという情熱さえあれば、気持ちは伝わることを今回の経験から学びました。

パリ観光では、凱旋門に登ったことが、一番心に残りました。パリの街並みを見て、感動しました。エッフェル塔を手に乗せたような写真も撮りました。

ミュンヘン観光では、美術館のスタッフさんと写真を撮ったことが心に残りました。

マインブルグでは、ホップ畑が高くて驚きました。ホームステイでは、プールに連れて行ってもらったことが一番楽しかったです。行く前は、うまくコミュニケーションできるか心配だったけれど、ホストファミリー（ホストブラザー）のアントン君は、僕のことをとても気遣ってくれて、うれしかったです。

アントン君がUSBに入れてくれた曲は、僕の宝物です。弟のヨハネス君とは枕投げやけん玉をして沢山遊びました。カメラの電池が切れた僕の代わりに沢山写真を撮ってCDを持たせてくれたブリギテ（お母さん）。朝ご飯と一緒に食べたり、瓶のリサイクルに連れて行ってくれたりしたエルンスト（お父さん）。絶対に彼らにまた会いたいと思います。

ウェルカムパーティーでは、プールに入りました。飛び込んだりして、おもしろかったです。フェアウェルパーティーでは、ビーチバレーやサッカーなどのスポーツをしました。ダイビングしてレシーブできたのが嬉しかったです。

ぼくはこのメンバーでは最年少だったけど、高校生の人たちとたくさん喋れてよかったです。

これからも頑張っていこうと思います。





自分の世界が広がった研修

専修大学松戸高等学校2年 田中 稚子

私はこの研修を観光とホームステイの二つに分けて報告します。事前準備として、観光もただ見るだけで終わらないよう本を読んだりして足りない知識を補いました。ホームステイに関しては、英語力は短期間でどうできるものでもないで、ドイツについて学んだりホストファミリーと連絡をとったりしました。実際に観光してみると夢の中にいるようでした。今まで写真の中だけだった世界が、目の前に広がっているのです。不思議な感じがしました。もちろん、数々の建物や修道院、街並みは本当に素晴らしいかったです。凱旋門の上から見たパリの景色、ベルサイユ宮殿の華やかさ、教会や修道院の言葉を失う美しさは忘れられません。

今回の研修で、二つの国に行けたことは幸いだと思います。すぐ次の国に行ったので感覚的に比較することができました。市内観光をしたのはフランスではパリ、ドイツでは主にミュンヘンでした。同じヨーロッパでも違う国なのでやはり全然違う印象を受けました。パリは歴史を強く感じました。建物も古いものが多く、当時のままの街並みは本当に美しかったです。一方で、少しがさつな印象を受けました。道路にはごみが沢山落ちており汚かったです。

ミュンヘンは歴史ある建物も目につきますが、近代的な建物も多い街でした。BenzやBMWの本社ビルがそびえるキレイな街で、ごみはありませんでした。几帳面といわれるドイツ人を表しているかのよう、道路は車道、自転車道、歩道としっかり分かれていて感心しました。

ホームステイでは、市役所で初めてホストファミリーと対面するとき、お母さんが「ようこそわかこ」と書かれた紙を持って迎えてくれました。家に行くと部屋のドアにも「ようこそ」「わかこ」とそれぞれ慣れない習字で書かれており、お兄さんは日本と書かれたTシャツを着てました。自分が本当に歓迎されていると感じとても嬉しかったです。ホストファミリーは本当に私によくしてくれました。出掛けて夜が遅くなる日には少し昼寝をさせてくれたり、何か必要か全てOKが常に気にしてくれました。私も辞書を持っていったのですが向こうも辞書を準備してくれていて、お父さんはスマホで独和訳のアプリをとってつけていました。日本語の発音が面白いらしく、そのアプリでよく遊びました。ある日の夕食後、テーブルにお父さんのスマホがありました。そのアプリが開いてあり、少し疲れてる？と表示されていました。私に聞こうとしたのかと思うと、優しさに心が温くなりました。お母さんはいつも朝ご飯を作り私を起こしてくれました。ご飯はいつも美味しく、好きな物を作ってくれました。ローマーナは英語が本当に聞きとりやすく、楽しい日々を過ごせたのはローマーナのお陰です。家族がドイツ語で話しているとき、何か動きがあれば何を話しているのか分かるときもありました。自分の名前が出た時は私の話をしていると分かるのですが、そうではないときもローマーナが通訳してくれると私の話だったりすることがありました。すごく真剣に話していたので驚く反面、嬉しく思いました。

ドイツでの初体験はバイクです。バイクはお父さんの後ろに乗りました。少し怖かったですが風が気持ちよかったです。ホストファミリーとの思い出はあげればきりがありません。色々な所に連れて行ってくれ、経験させてくれました。実の娘の様に接してくれる優しく温かく、そして、面白い素敵な家族でした。この感謝は一生忘れません。来年ローマーナと会う約束をしたので、英語をしっかりと勉強して更に仲良くなりたいと思います。

最後になりましたが、この事業に携わる全ての皆様に感謝します。そして、今後、この事業が復活することを切に願います。





夢のようなホームステイ

千葉県立柏南高等学校2年 中村 久留実

私はこの12日間とても素敵な経験をした。それは守谷と姉妹都市であるマインブルクでのホームステイだ。成田空港出発後、12時間かけて到着したのは華の都パリである。そこから乗り継いで2時間、やっとドイツのミュンヘンに到着した。

ドイツの街並みはメルヘンで日本にない可愛らしいものだった。そこからバスで約30分、ついにマインブルクに到着した。自分の家族にいよいよ会うのだ。みんな少しの緊張とわくわくがあった。市役所でとうとうご対面。色々な家族がいた。友達の名前と歓迎のメッセージが書かれたボードをもって迎えているホストファミリーもいた。私のところはお父さんとダニエラが来てくれた。優しいホストファザーと私と同年に見えない、大人びたシスターだった。解散して家に到着。そこでルードヴィックとお母さんに会った。にこにこ迎え入れてくれた。それから数日間私たちは穏やかで楽しい日々を過ごした。ただひとつ、言葉の壁だけが気がかりだった。「ドイツ語を話せたらどんなにいいだろう」とよく思った。生活の会話はほとんど英語、ところどころ上手く伝わらないこともあったが私は自分の英語力を過信していた部分があったと思う。なぜなら、日本人よりもドイツ人のほうがずっと英語を話せるからだ。当たり前のことだが、日本人の語学力の低さを実感した。そしてホームステイ終盤、私たちはノイシュヴァンシュタイン城を訪れた。シンデレラ城のモデルになった有名な城だ。とても綺麗で圧倒された。中に入ると歴史を感じる内装と装飾で造られていた。念願のノイシュヴァンシュタイン城に来られて本当によかった。

とうとうお別れの時がやってきてしまった。ここにくる前から準備をしていたパーティー、私たちは涙ながらにフェアウェルパーティーを成功させた。ありがとうを歌っている時、私の家族がギュッと抱きしめてくれて私も力強く抱きしめ返した。お父さんは「また絶対に来るんだよ」と言っていて、私は「もちろん」と応えた。ルードヴィックとダニエラたちには「ドイツ語話せるようになったら、また絶対遊びに行くね。」と伝えた。二人とも快くOKしてくれた。本当に本当にありがとうと心から感動した。私はこのことが刺激になり、色々な国の言葉を話せるようになりたいと思った。まずは英語だ。これからの日本を引っ張っていけるように一生懸命自分にできることを頑張りたい。





ドイツでの成長

茨城県立藤代高等学校2年 八反田 風子

今回のドイツの派遣が決まった時嬉しい気持ちと同時にホームステイに対する不安な気持ちもありました。ホストファミリーに自分の伝えたい事がちゃんと伝えられるのか、ホストファミリーと打ち解けられるのか私は不安な気持ちを持ったまま出発することになりました。

フランスは私自身二回目ではありましたが、本当に素敵な場所でワクワクしました。フランス観光最後の場所となったベルサイユ宮殿は、以前私が家族旅行で来たときには訪れることができなかったのでも楽しみにしていました。実際のベルサイユ宮殿は自分の期待を上回り美しく壮大で感動しました。フランス観光では感動の連続で、たくさんの歴史にふれることができました。

次に向かったドイツでは派遣のメインであるホームステイの対面式が行われました。初日は緊張してホストファミリーとうまく話すことができず終わってしまいました。ですがホストファミリーのリディアは本当に優しくて私ができるようにゆっくり話してくれたり「お腹空いてない?」「困ったことがあったら聞いてね」と気遣ってくれたのですぐに打ち解ける事ができました。ホームステイ中の食事は日本とは違い、朝はとても質素で夜は外食だったり買ってきたお肉だったり手作りをすることが少ないんだなと思いました。ほかにもリディアはドイツの色んなと場所へ連れて行ってくれたり伝統的な料理を食べさせてくれたり、お菓子の作り方を教えてくれたりたくさんの事を私に体験させてくれました。私はかわりにリディアに日本についてたくさんの事を伝えることができました。

最後のパーティーではリディアに感謝の気持ちを伝えることができたと思います。また、ドイツの同年代の子達と親交を深めることができました。ドイツでの生活が本当に今までにないほど楽しくて日本には帰りたくない!と思うほどでした。出発前にあった不安も消え、たくさんの思い出と体験ができて本当によかったです。今後の私の目標としてはもっと日本を知り、英語とドイツ語をもっと勉強してリディアやドイツでできた友達にまた会いに行きたいです。そして親をはじめ支えてくださった方々、また優しく私たちを迎えてくださったマインブルクの方々に感謝したいです。





初めての海外、初めてのホームステイ

茨城県立守谷高等学校1年 井上 菜々美

私はこのホームステイでとても有意義な時間を過ごしました。

私は今回が初海外という事もあり、出発前から行くのがとても楽しみだった反面、不安も多かったです。しかし、私にとってこの研修は始めて日本という国から出て他の国に行く事によって、とても貴重な経験となり一生忘れられない思い出となりました。

12時間という長い長いフライトの後、やっと着いたフランス・パリ。パリの街並みはすごく華やかでさすが花の都と言われるだけありました。パリ市内観光ではテレビや写真で、何回も見たことのあるエッフェル塔や凱旋門、そして、ベルサイユ宮殿を初めて自分の目で見た時はとても感動しました。パリ市内観光が終わり、飛行機に乗りパリを飛びドイツ・ミュンヘンへ。

ミュンヘンはパリの華やかさとは一変、とても静かで穏やかな所でした。ミュンヘン市内観光で特に記憶に残っている場所はアルテピナコテーク美術館です。そこには、多くのキリスト教関連の絵が多く展示されていました。その中でも特に印象に残っているのは、同じキリストを描いているのに人によって別のものに見えてしまう事がとても感動的でした。ミュンヘン市内観光が終わりマインブルグへ。

そして、ついにホストファミリーとの緊張の初対面。英語が通じなかったらどうしようという不安がありましたが、とてもゆっくり話してくれたり、分かりやすく説明してくれたりして、聞き取る事、理解する事が出来ました。英語で会話できた事はすごく良い経験となりました。そして、ホストファミリーに色々なところへ連れて行ってもらいました。プールに行ったり一緒にショッピングを楽しんだり、毎日がとても楽しかったです。お別れのときは本当に悲しかったです。

もう一度ドイツに行きたいです。そして、ホストファミリーに会いに行って、もっともっと多くの思い出を作りたいです。

本当に今回の研修に参加できてよかったです。





感謝と優しさを学んだホームステイ

茨城県立土浦第一高等学校1年 藤森 里桜

私はこの事業から沢山のことを学び、素晴らしい経験と思い出を手に入れました。一日日々が充実したもので、新たな発見の連続でした。その中でも特にホームステイは私にとってかけがえのない思い出の一つだと思います。

今回の事業において、一番楽しみで一番不安なのがホームステイでした。文化も言語も違う人たちといきなり家族として生活する。しかも言葉が思ったように伝わらない可能性が大きい。その不安が次第に楽しみという気持ちに勝り、初めて会うときにはガチガチに緊張してしまったのを覚えています。しかし、ホストファミリーからとても温かく迎えてもらい、その不安は一日にして消えました。その後の生活においても、ホストファミリーの言葉の壁を超えるほどの優しさのおかげで不自由を感じたことは一度もありませんでした。言語や文化を越えて通じあうのは、そういった優しさや気持ちなのだろうと思います。

このことは私の価値観を変えました。英語において大切なのは正しい文法や語彙力であり、今回も英語の上達につながればいいなという気持ちがありました。もちろん、そういったことも重要です。もっと英語が話せるようになりたいと強く思いました。しかし、それ以上に伝えようとする思いやどうしても伝えられないときは相手を思いやることが、本当のコミュニケーションをとるには必要不可欠だと思います。言葉が思うように通じないからこそ人の優しさを感じることが出来ました。

また、感じたのはホストファミリーの優しさだけではありません。家族のもとを離れて海外に行くのは私にとって初めてのことでした。この事業に参加したのも家族のサポートがあったおかげです。私はホームステイ中、この二つの家族の優しさを深く感じました。

他にもたくさん思い出や学んだことがあります。この事業に参加して良かったです。また、この機会を与えてくださった全ての人に感謝しています。この経験が生かせるように努力していこうと思います。





ホームステイをして

茗溪学園中学校3年 三宅 優奈

私は今回の派遣事業で貴重な体験ができたとともに、成長できたと思います。

私たちは成田空港からパリへ行き観光しました。パリの石畳の道路や建物、教会はとても美しかったです。

ミュンヘンに行った時に見た市役所の大きさと華やかさにはとても驚きました。そして、この事業のメインであるホームステイのホストファミリーとの対面は緊張しました。

私はもう一人の派遣団の子と同じだったので心強かったのですが、うまく話せるか不安でした。でも、ファミリーの方が優しく聞いてくれてうれしかったです。私がステイした家はとても広くて、そこの家の庭でウェルカムパーティーをしました。初めはみんな派遣団員どうして話していて、ファミリーの方と話せなかったのですが、ご飯を食べ終わった後みんなで庭のプールに入った事がきっかけとなり一緒に遊び打ち解けられるようになりました。また、庭でバトミントンやビリヤードをしました。私はビリヤードはやったことがなかったけど丁寧に教えてくれて少し出来るようになりました。その後、みんなでトランプしたり、焚火のまわりに集まりマシュマロを焼いて食べたりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

ステイ期間は、ゲームやショッピング、ビアガーデンに行きました。また、ドイツで虹を見ることができて得した気分でした。私はあまり英語が話せなくて色々な事が伝えられなくてもどかしかったです。

フェアウェルパーティーでは、ダンスを練習したのにミスしてしまいました。精一杯がんばったと思います。サンキューメッセージと「ありがとう」を歌った時、今までのことを思い出して思わず泣いてしまいました。歌詞のサビが私の気持ちにあてはまり、感謝の思いで胸がいっぱいになりました。

今回の事業で言葉が違っても仲良くなれる、けれどもお互いを理解するにはやはり共通の言葉が必要だと強く思いました。私はまたドイツに行ってホストファミリーと会いたいので、英語を話せるように頑張りたいと思いました。





最高の宝物

守谷市立御所ヶ丘中学校3年 吉川 優衣

出発の朝、私は4時に起きました。あまりにも楽しみで市役所に行く3時間も前に起きてしまいました。

12時間の飛行を終え、私たちはパリに着きました。パリのスーパーは怖かったです。レジの定員さんがフランス語しか話すことができなくて通じませんでした。でも、ホテルの人は優しく、朝食はとても美味しかったです。朝食は毎日バイキングで、昼食と夕食はすべてコース料理でした。私は少食なのでたくさん残してしまいました。パリ市内研修で一番印象に残ったのは、凱旋門でした。とっても大きくてその壁にはたくさんの文字がかかれています。感動しました。その凱旋門の上からのパリ市内の景色は少し曇ってはいたけれど、素晴らしかったです。とっても大きくて綺麗なベルサイユ宮殿をみてから飛行機に乗りミュンヘンに着きました。

ミュンヘンのホテルでは、プールに入ったり夜みんなで部屋に集まって遅くまでお話をしました。今回の団員の12人はとても面白い人ばかりで、派遣中は楽しかったことしか覚えていません。でも、やっぱり一番の思い出はマインブルクでの生活でした。

マインブルクに着いたとき、市の皆さんはとても温かく迎えてくれました。ホストファミリーと対面した日の夜、ウェルカムパーティーがありました。プールやビリヤードをやってとても楽しいパーティーとなりました。そんなパーティーが終わってホストファミリーと家に帰り、まず2日間ホストファミリーと過ごしました。買い物やパーティー、ホップの博物館などに行って楽しい時を過ごしたけれど、その2日間は家でホストファミリーとあまり話すことができませんでした。ここへ来る前、ホストファミリーとたくさん話すと想像していた自分にとって少し悲しいことでした。でも、ノイシュバンシュタイン城に行った3日の夜、私のホストファミリーがリビングに呼んでくれて話すことができました。私は嬉しくてたまりませんでした。持ってきた写真をみせたり、ドイツのドラマをみたりしました。

このホームステイは私にとって「試練」であったけれど、忘れられない大切な思い出になりました。このような体験をし、私はとても成長できたと思います。また、夢の幅が広がったように思います。この派遣に参加できて本当に良かったです。





私は机の上では学べない事を たくさん学んで帰ってきた

江戸川学園取手中学校2年 小島 かえで

私は悲しかった。それは国を越えての「別れ」を経験したからだ。私は日本人の友達と「別れ」を経験したことが数回あるが、今回の「別れ」は重みが全く違うものだった。日本と9000kmという遠い場所にあるマインブルク市。日本国内のような気持ちではなかなか行くことの出来ない距離である。もう一生行くことが出来ないかも知れない。その中での「別れ」はとても辛いものである。

ホストファミリーの中で私は充実した1週間を過ごすことが出来た。自分の下手な英語をしっかりと聴いて、私に分かるように話してくれたホストファミリーには感謝の気持ちで一杯である。また、私はホームステイを通じて自分の弱さに改めて気付かされた。自分は自分勝手に、わがままで人の事をろくに考えられない奴だと自分の実の家族と離れて、他の家庭の中でその家族の一員として生活をするとはよく分かる。

私が学んだ事はそれだけではない。私はマインブルク市と他の場所との違いを発見した。それは市民全体が家族みたいだった、ということである。マインブルクの人は色々な人に大きな声で挨拶をしている。大人から子供まで全員が、また、家族との仲も良かったと思う。よく私の年齢は「反抗期」と呼ばれ、大人、特に家族に反抗してしまう時期だと言われる。しかし、マインブルクの私と同じ年齢の子供達は親に反抗する様子もなく、親ととても仲が良い。友達と遊びに行くときも親と一緒にいるという光景をマインブルクでは多く見られた。

誰かが困っていると誰かが手を差し伸べてくれるそんな市だった。私はそんなマインブルク市民の中で大きく成長したと思う。私は守谷市やその他の色々な機会で、この貴重な経験を生かしたいと思う。

最後に、このようなすばらしい機会を私に与えてくれた守谷市、マインブルク市の方々、ホストファミリー、自分の家族には感謝している。私は机の上では学べないことをたくさん学んで帰ってきた。





マインブルクでの想い

団長 守谷市国際交流協会 渡邊 雄一

今回応募した中学生高校生は38人である。応募した全員が目的意識、目標をしっかり持っていたのが印象的であった。その中から2次にわたる選考を経て、12名（中学生6人、高校生6人：男子4人、女子8人）が派遣された。派遣の目的は広い視野を持ち、国際感覚を養い、国際交流に積極的に関われる素養を得ることにあるが特にホームステイを通してこれらの目的は達成できたと思われる。

これには何より姉妹都市マインブルク市当局者、ホストファミリーの彼らに対する対応が遠方からの親族、親友と遜色がないことに起因する。

これに対して団員は、素直に自分を表現していたがマインブルク側も同様で、心と心の通い、結びつきが促進された。

訪問したドイツ国からは、日本が明治時代、近代国家に向けてスタートした際に、国会開設、憲法制定、国軍の創設、医学、高等教育等の分野で教授を受けたことはよく知られている。今回訪問したミュンヘンには、医学、文学の分野で改新に取り組んだ森鷗外、満鉄及び鉄道院総裁、外務大臣、東京市長等を歴任した後藤新平等が留学して日本の近代化に貢献している。

2度の大戦をはじめ厳しい歴史を刻んできた経緯と規律ある国民性などは日本と相通するものがあるのかもしれない。

現在、日本は日常生活を含めて様々な分野でアメリカ合衆国の影響を受けている。短期間のマインブルク滞在ではあるが、自らの国、独自性を大切にしている国民性を肌で感じ、日本がいかに個性を失ないつつあるかを実感する。

団員がホームステイを通して身近な生活の違いを肌で感じ、五感を働かし日本の、そして、自分の生活の中で何を受け継ぎ、何を大切にしなければならないかを考えることができれば目的の一つがクリアできたといえる。受け止め方、感じ方は即刻的なもの継続的なもの後発的なものがあるが、マインブルクで得られたものは時の経過とともに広く深く浸透していくことと思う。

歓迎パーティーでプールに共に飛び込み、戯れで始まったホストファミリー同年代との交流。さようならパーティーで涙の抱擁は感動的であった。この感激をベースにこの思いを具現化し、将来に生かしていくにはそれなりの創造、努力が求められる



るが、単なる涙の別れに終わって欲しくないと思う。

マインブルクのホップ畑、牧草畑が広がる牧歌的な光景、土地に根差した食生活、それに伝統を生かした町づくりなどに「ゆとり」を感じる。

人は旅に出ると、眺め、感じ、考える立場に立つと言われるが、生き方、在り方を考える貴重な場と時間であった。サポートされた方々に感謝したい。

（付記：見聞録）

（１） 自然編

○ドイツアルプスの山岳地帯を除くと、ほぼ平坦な地形である。その中であって上部が平坦な列状の丘陵が見られる。氷堆丘で日本にはない氷河地形である。パリでは凱旋門の屋上から、典型的なモデルのようなケスタが遠望された。ドナウ川は国際河川、中流河川の特徴を持つ。

○気候は冷帯の大陸性混合林気候に属する。夏の日較差は10℃内外で大きい。樹木は白樺、ナナカマド、シラビソ、カラマツ、ツガ、ミネカエデなど日本では標高2000メートルの高地に生育するものが多い。その一方で、コブシ、松、菩提樹、トチ、なども目に入り、ツリフネやアザミに懐かしさを感じ、トリカブトには驚く。

（２） 産業編

○ドイツは2022年までに原子力発電から脱却することを市民、政府が共に選択したが不足する電力は、原子力発電が国の発電量の77%を占める原子力発電大国のフランスから調達する。農地に大規模なソーラーパネルが走行する車窓から目に入る。特に、休耕地の多くはパネルで覆われている。太陽光の開発技術で世界をリードしようとする意気込みがある。日本よりも風が弱い地域にも拘らず風力発電の風車も多い。日本では原子力発電の代替として課題はあるにせよ、積極的に自然エネルギーの活用に取り組むべきとドイツの在り方をみて強く感じる。

Landshut に行った折、原子力発電所から巨大な蒸気が吹き上げているのが望めたが地域住民の不安はいかばかりか。ジビレさんは放射線が怖く野菜はスーパーでは購入せず、友人の新鮮な野菜を譲り受けている。マインブルグで日本に関する最大の話題は、福島原発事故であった。

（３） 交通編

○アウトバーンの道幅は日本の高速道とほぼ同じで、USAのものよりは狭い。バイエルン州の青と白を車のエンブレムにしたBMW、国民車フォルクスワーゲン、アウディ、ベンツなどがスムーズに走行、国産車を愛用している様子が窺える。アメリカ車は見かけないが、トヨタ、ホンダ、スズキ、三菱などが時々目に入る。稀に時速200kmを超えるスポーツカーが抜けていくが、多くは流れに沿って走行している。速度制限は原則ないが市街地などには制限があり、ドライバーは静かに運転する。日本では一般道で速度を順守する車は皆無だが、ここではマナーの良さが際立つ。人、自転車、自動車の通行分離は徹底している。





再会，感動のマインブルク

引率者 守谷市役所市民協働推進課 飯島 和美

今回の海外派遣事業は担当者として、引率したいと考えていました。昨年の4月に守谷市市制10周年記念式典が中央公民館で開催されました。式典に参加するために姉妹都市であるマインブルク市副市長、シェーンフーバーさん他2名が来日され、その際に国際交流の担当者として成田空港やホテル等の送迎を行った事、派遣事業に関する旅行会社との打ち合わせも行っていただけもあり、是非、引率者として参加をし、マインブルクで副市長、シェーンフーバーさんに、再会したいと考えていました。

7月29日、壮行会も終わり、送迎バスにて成田に向かい空港で搭乗券を受取り、セキュリティチェックを行い出国審査でパスポートの提示をすることによって、これから12日間の海外派遣が始まることを改めて実感しました。そして、12時間もの長いフライトで到着した場所は、フランス、シャルルドゴール空港でした。今回で7回目になるドイツへの派遣事業であるが、今回はドイツだけではなくフランスも派遣国に含まれ、フランス、ドイツ、両国を渡航するスケジュールでした。

フランス、パリ1日目では長旅の疲れがあったかと思うが、見るものが新鮮で団員達も目を輝かせていました。オルセー美術館では、ゴッホの自画像、ミレーの落葉拾い、モネの睡蓮等、絵画に詳しくない自分でも分かる絵があり、絵の奥深さ、色遣いに見入っていました。凱旋門では屋上に登れる事を知っていたので、添乗員さんをお願いし、この日のスケジュールを変更していただき凱旋門の屋上に登る事ができました。螺旋階段を登り地上50mからパリの街並みが一望できる景色は圧巻であり、シャンゼリゼ通りを始め12本もの通りが放射状に延びている風景を団員達もデジカメに収めていました。この他にも、コンコルド広場、ノートルダム寺院、エッフェル塔を眺めるトロカデロ広場を見学しました。2日目はヴェルサイユ宮殿を見学。ヴェルサイユ宮殿はルイ14世が建造した宮殿でありフランス絶対王政の象徴的建造物ともいわれ、広大な庭園や色鮮やかで豪華な鏡の間など、見事なものでした。そして、この日の夕方にドイツ、ミュンヘンへ到着しました。

ミュンヘン観光、英国庭園入口近くで人が群がっており、その視線の先にはイーザル川から引いた小川でサーフィンを楽しんでいる大勢の若者で歓声が沸いていた。日本では見られない光景であり地元では有名な観光スポットのようであった。その先へ進んで行く



と日本がミュンヘンオリンピックの開催記念に贈った日本茶室の建物があり、周辺のカエデが雰囲気を作っていました。その後、アルテ・ピナコテーク美術館へ、この美術館は15～18世紀の絵画、レオナルド・ダ・ヴィンチなど、印象に残る絵が数多くありました。そして、ミュンヘン新庁舎へ、新庁舎と言っても100年以上前に建てられた庁舎で大きな仕掛け時計が回転しながら華麗なダンスや演奏で私達を楽しませてくれました。

8月2日、本日はいよいよマインブルクです。ホテルで朝食を済ませた後、バスでマインブルクへ向かいました。アウトバーンよりマインブルクの標識が見え始め、一般道へ入り背の高いホップ畑が周辺に見受けられるようになると、不安や緊張からか団員達の口数が少なくなったように感じました。そして、マインブルクへ到着。市の担当者シュレンマーさんに迎えられ、対面式会場へ案内されました。ライザー市長は夏季休暇中で代わりにラングウィザー副市長より歓迎の言葉をいただき、渡邊団長より感謝の言葉を伝えました。団員達も一人一人あいさつを行い、優しいホストファミリーと対面し、それぞれの滞在先へ向かいホームステイの始まりです。対面式では現地在住で医師の大室先生が通訳をしてくださいました。この日の夜にウェルカムパーティーが、ホストファミリーのバウアーさん宅で開催され夜遅くまで交流を楽しみました。

渡邊団長と自分のホームステイ先は、1年ぶりに再会できたシェーンフーバーさん宅で、大変お世話になりました。朝食はテラスでコーヒーを飲みながら、昼食には中庭でバーベキュー、夕食は近所のビアガーデンと、マインブルクでの時間はのんびりと感じました。また、レーゲンスブルグや夫マーティンさんの趣味であるハンティングができる草原を見て回り、偶然にも野生の小鹿に出会いました。ホームステイの後半には、団員達と各ホストファミリーと一緒にノイシュヴァンシュタイン城やドナウ川でのクルーズに出掛けました。久しぶりに会った団員達は、ホストファミリーと一緒にふざけあっている姿を見て安心しました。

マインブルクを発つ前日になり、フェアウェルパーティーが開催されました。今まで1か月以上練習してきたダンスパフォーマンスは遺憾なく発揮されました。また、雑巾がけレースではホストファミリーも一緒に楽しむことができたと思います。特に団員一人ずつホストファミリーへのサンキューメッセージでは涙で言葉が詰まっている団員もいました。最後に『ありがとう』を歌いながら一人二人とサンキューメッセージをホストファミリーへ手渡し抱合っている姿を見ていると目頭が熱くなっている自分がいました。

別れの朝、早朝にも関わらずラングウィザー副市長、シュレンマーさんも見送りに来ていただきました。団員達はお世話になったホストファミリーと涙ぐみながら抱合い、別れを惜しんでいました。バスが動き出してもお互いに手を振り続けている光景を見ると、きっとそれぞれの家庭で、素晴らしい時間を過ごせたのだろうと確信しました。今回の派遣事業で、外国の人と交流する楽しさを身を持って実感できたと思います。この経験を生かし自分の夢を実現させてください。

最後に大変お世話になったマインブルク市長をはじめとする市関係者、温かく私達を迎えてくださったホストファミリーの皆さん、事前研修からご協力をいただいた守谷市国際交流協会の方々にお礼を申し上げます。また、出国から帰国まで派遣団員14名をサポートしてくださった添乗員の松岡さん、そして、事前研修以前から事後研修の最後まで支えていただいた渡邊団長、市民協働推進課の皆さんへ感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



フェアウェルパーティー プログラム

(表紙)



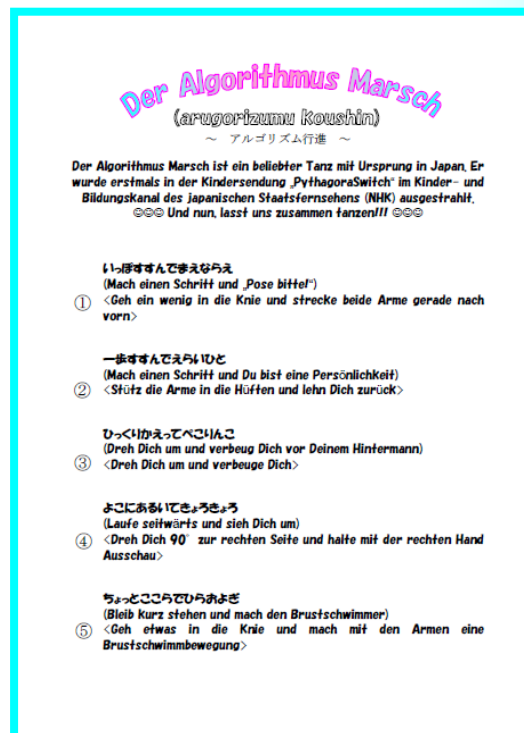
(プログラム)



(ダンス)



(アルゴリズム行進)



(アルゴリズム行進)

- ちよっどしゃがんでくひうい
(Bück Dich mal kurz und heb' ne Kastanie auf)
<Bück Dich und tu so, als würdest Du eine Kastanie aufheben>
- くうさいれきしゅうしゅう
(Pump Luft hinein - shuu shuu)
<Pump mit den Armen nach unten, als hättest Du eine Luftpumpe>
- くうさがはいてピュウピュウ
(So, run ist Luft drin - pyuu, pyuu)
<Flattere mit den Armen, als würde Dich jemand mit einer Luftpumpe aufpumpen>
- そろそろおわいか
(Hmm, ob nun bald Schluss ist?)
そろそろおわいか
(Hmm, ob nun bald Schluss ist?)
- そろそろおわいか
(Hmm, ob nun bald Schluss ist?)
おわい!
(Schluss!)



(雑巾がけリレー)



(雑巾がけリレー)



Schon seit Generationen gibt es in Japan eine bestimmte Art und Weise, den Boden mit einem Scheuerlappen zu wischen. Diese Methode nennt sich „zoukin-gake“. Und diese wollen wir Euch heute spielerisch in Form eines Staffellaufs, bei dem der Boden auf Zeit gewischt wird, näher bringen. Wir werden Euch in vier Teams einteilen. Der erste Wischer jedes Teams wischt von einem Ende zum anderen und dann wieder zum Start zurück. Dann ist der nächste an der Reihe. Auch wenn es nicht so klingt: Das Spiel macht Spaß und nebenbei wird der Boden noch sauber – man schlägt also gleich zwei Fliegen mit einer Klappe. Aber welches Team wird wohl gewinnen?



(歌詞：ありがとう)

ありがとう — いきものがかり

“ありがとう”って伝えたくて あなたを見つめるけど
繋がれた右手は 誰よりも優しく ほら この声を受け止めている

まぶしい朝に 苦笑いしてさ あなたが窓を開ける
舞い込んだ未来が 始まりを教えて またいつもの街へ出かけるよ
でこぼこなまま 積み上げてきた ふたりの淡い日々は
こぼれなひかりを 大事におつめて いま輝いているんだ

“あなたの夢”がいつからか “ふたりの夢”に変わっていた
今日だって いつか 大切な 瞬間(おもいで)
あおぞらも 泣き空も 晴れわたるように

“ありがとう”って伝えたくて あなたを見つめるけど
繋がれた右手が まっすぐな想いを 不器用に伝えている
いつまでも ただ いつまでも あなたと笑っていたいから
信じたこの道を 確かめていくように 今 ゆっくりと 歩いていこう

ケンカした日も 泣きあった日も それぞれ彩(いろ)映かせて
真っ白なところに 描かれた未来を まだ書き足していくんだ

誰かのために生きること 誰かの愛を受け入れること
そうやって いまを ちよっとずつ 重ねて
喜びも 悲しみも 分かち合えるように

思いあうことに幸せを あなたと見つけていけたら
ありふれたことさえ 輝きをいなくよ ほら その声に 寄り添っていく

“あいしてる”って伝えたくて あなたに伝えたくて
かけがえのない手を あなたとのこれからを わたしは 信じているから
“ありがとう”って言葉をいま あなたに伝えるから
繋がれた右手は 誰よりも優しく ほら この声を受け止めている

(歌詞：ありがとう)

Ikimonogakari - Danke

Ich schaue dich an und möchte dir „Danke“ sagen
Meine rechte Hand in deiner, du hältst sie so sanft wie sonst niemand
Ich hoffe, du verstehst, was ich sagen will

Erinnerst du dich an diesen viel grellen Morgen, ein Lächeln konnte ich mir nur mit Mühe abringen, doch du öffnest das Fenster
Und erklärst mir, dass die Zukunft zwar unvorhersehbar aber auch ein Anfang sei, und dann fuhr ich wie sonst auch in die Stadt
Diese viel zu flüchtigen gemeinsamen Tage voller Auf's und Abs
Sie sind wie einzelne Sonnenstrahlen, die die Wolken durchbrechen; Stück für Stück trugen wir sie zusammen und nun strahlen sie gleißend hell

„Dein Traum“, ganz unbemerkt ist er zu „unserem Traum“ geworden
Heute... Gestern... Momente so kostbar
Der Himmel, mal ist er blau, mal weint er; letztlich jedoch wird er sich aufklären

Ich schaue dich an und möchte dir „Danke“ sagen
Meine rechte Hand in deiner, unbeholfen soll sie dir diesen einen Gedanken vermitteln
Für immer – einfach nur für immer – möchte ich mit dir lachen

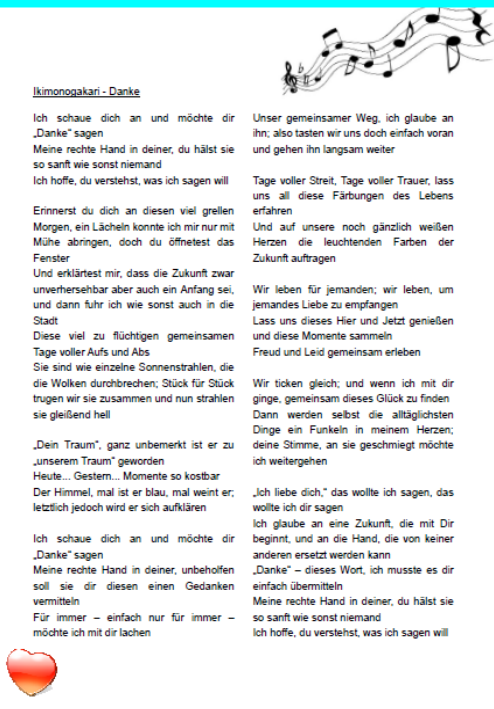
Unser gemeinsamer Weg, ich glaube an ihn; also tasten wir uns doch einfach voran und gehen ihn langsam weiter

Tage voller Streit, Tage voller Trauer, lass uns all diese Färbungen des Lebens erfahren
Und auf unsere noch gänzlich weißen Herzen die leuchtenden Farben der Zukunft auftragen

Wir leben für jemanden; wir leben, um jemandes Liebe zu empfangen
Lass uns dieses Hier und Jetzt genießen und diese Momente sammeln
Freud und Leid gemeinsam erleben

Wir ticken gleich; und wenn ich mit dir ginge, gemeinsam dieses Glück zu finden
Dann werden selbst die alltäglichsten Dinge ein Funkeln in meinem Herzen; deine Stimme, an sie geschmiegt möchte ich weitergehen

„Ich liebe dich“, das wollte ich sagen, das wollte ich dir sagen
Ich glaube an eine Zukunft, die mit Dir beginnt, und an die Hand, die von keiner anderen ersetzt werden kann
„Danke“ – dieses Wort, ich musste es dir einfach übermitteln
Meine rechte Hand in deiner, du hältst sie so sanft wie sonst niemand
Ich hoffe, du verstehst, was ich sagen will



(団員名簿)

**2013年
守谷市青少年海外派遣事業**
Schüleraustausch Programm ~29. Juli - 9. August 2013~

団員 (Teilnehmer)

梅原 佳吾 Keigo UMEHARA	渡邊 公輝 Kōki WATANABE
福岡 佑基 Yūki FUKUOKA	小菅 寛生 Hiroki KOSUGA
田中 稚子 Wakako TANAKA	中村 久留美 Kurumi NAKAMURA
八反田 風子 Fūko HATTANDA	井上 菜々美 Nanami INOUE
藤森 里桜 Rio FUJIMORI	三宅 優奈 Yūna MIYAKE
吉川 優依 Yui YOSHIKAWA	小島 かえで Kaede KOJIMA

団長 (Group Leader)
渡辺 雄一 Yūichi WATANABE

引率者 (City Representative)
飯島 和美 Kazumi IIJIMA

(団員写真)



(裏表紙)



感謝

守谷市青少年海外派遣事業

マインブルクの新聞に掲載された記事



Noch bis Donnerstag weilen Jugendliche aus der Partnerstadt Moriya in der Hopfenmetropole, untergebracht bei Gastfamilien

Foto: Limmer



Stolz auf ihre Leistung: Haede Kojima (links), hier mit zwei Freundinnen.

Gäste aus Japan im Rathaus begrüßt

Jugendliche aus Partnerstadt Moriya zu Besuch in der Hopfenstadt

Von Margarita Limmer

Mainburg. Eine zwölköpfige Jugendgruppe aus der Partnerstadt Moriya weilt mit drei Betreuern seit Freitag bei Gastfamilien in Mainburg. Zweite Bürgermeisterin Hannelore Langwieser, Organisatorin Inge Schlemmer von der Stadtverwaltung, Stadtverwaltungschef Georg Harrieder sowie einige Stadträte hießen sie bei ihrer Ankunft im Rathaus willkommen.

„Wir freuen uns sehr, dass wieder Besuch aus Japan gekommen ist, und diesmal sind es überwiegend Schüler, das ist ganz besonders schön“, so Langwieser - derzeit amtierendes Stadtoberhaupt - beim freundlichen Empfang im Sitzungssaal, wobei sie die Begrüßung auf

Japanisch vornahm. Sie bedankte sich bei allen Familien, die sich bereit erklärten, einen Jugendlichen bei sich aufzunehmen, denn ohne genügend Gastfamilien sei solch ein Austausch nicht möglich. Jedem Gast überreichte sie ein kleines Willkommensgeschenk.

Umgekehrt zeigten sich die Gäste „sehr glücklich“, zu Gast in der Hopfenstadt sein zu dürfen. „Wir freuen uns über alle Maßen, hier zu sein“, so einer der Betreuer, der die deutsche Sprache erstaunlich gut beherrscht. Auf einige Sehenswürdigkeiten Bayerns freute man sich ganz besonders.

Nach der freitäglichen Willkommensparty bei Familie Bauer und dem Wochenende, das die japanischen Jugendlichen ausschließlich mit ihrer jeweiligen Gastfamilie

verbrachten, wobei eine Japanerin beispielsweise auch am 24-Stunden-Schwimmen teilnahm, wird heute das Schloss Neuschwanstein besichtigt, das ganz oben auf der Wunschliste der Reisenden stand.

Übermorgen steht dann eine Schifffahrt von Kelheim durch den Donaudurchbruch zum Kloster Weltenburg auf dem Programm, ehe im Musiksaal der Städtischen Sing- und Musikschule eine Abschiedsparty mit anschließendem Abschiedessen stattfindet. Denn am Donnerstag heißt es dann schon wieder Koffer packen und ab zum Flughafen München, von wo aus der Rückflug nach Tokio-Narita startet.



2013年8月5日

マインブルク市役所で日本人訪問団を歓迎

姉妹都市守谷の青少年海外派遣団は「ホップの市」（＝マインブルク市）へ来市。

マインブルク市へ、姉妹都市守谷の12名の青少年海外派遣団員は金曜日、3名の引率者と来市した。現在はホストファミリー宅に泊まっている。

ラングウィーザー・ハネローレ副市長、市役所の国際交流担当者、シュレンマー・インゲ氏、市の行政長、ハリーダー・ゲオルク氏と市議会議員は派遣団を市役所で歓迎した。

上の写真：木曜日まではホストファミリーに泊まっている姉妹都市守谷市からの青少年が「ホップの首都」にいる。

ラングウィーザー副市長は歓迎式典で「日本から訪問団が来市してくれたことは嬉しいことで、今回は若い人達の訪問団なので、特に楽しみです。また、訪問団を受け入れるホストファミリーの存在なしでは、このような交流プログラムは行えない。ホストファミリーには大変感謝している。」と話した。最初の挨拶は日本語で話した上で、訪問者一人ひとり小さな歓迎プレゼントを渡した。

派遣団員も「ホップの市」に来市し、ホストファミリーとの生活に期待しているような雰囲気であった。引率者は「マインブルクへ来市して、このような歓迎を受けて大変嬉しく思います。また、バイエルン州の見所も楽しみにしている。」とドイツ語であいさつを行った。

金曜日の夕方よりバウアー氏の家庭で行われたウェルカムパーティーと青少年がそれぞれのホストファミリーと過ごした週末。（左の写真：24時間水泳レース参加）小島さん（左）と2人の友達。

5日は訪問団の皆さんが一番見学したいと言っていた、ノイシュヴァンシュタイン城に観光予定で、7日にはケールハイムからウェルテンブルク修道院までのドナウ川クルーズがあり、その後は、市の音楽学校でフェアウェルパーティー・フェアウェルディナーが企画されている。残念ながら木曜日はもう帰国の日で、早朝にミュンヘン空港へ出発する。





Deutsch-japanisches Fest bei Gastfamilie

Mainburg/Moriya. Einige traumhafte Tage bei herrlichem Sommerwetter haben die japanischen Schüler aus der Partnerstadt Moriya in Bayern erlebt. Neben einem ausgiebigen Sightseeing gab es genügend Zeit zum Feiern oder ganz einfach zum Chillen.

Eine Gelegenheit dazu bot die Einladung von Ingrid und Heinrich

Bauer zu einem deutsch-japanischen Grillfest in ihrem weitläufigen und wunderschön angelegten Garten in der Mörikestraße. An diesem lauschigen Sommerabend mit Temperaturen von über 20 Grad bis weit in die Nacht hinein, nutzten die Teenager den Schwimmteich, um sich mit einem Sprung ins kühle Nass ein wenig zu erfrischen (unser

Bild). Derweil wurden am Grill jede Menge leckere Speisen vorbereitet, die auch reißenden Absatz fanden.

Heute heißt es nach einer äußerst erlebnisreichen Woche von den Gasteltern Abschied nehmen, wenn die zwölf Jugendlichen vom Münchner Flughafen zu ihrer langen Reise zurück in die fernöstliche Heimat starten. Foto: The Sour Cherry

ホストファミリー宅での日独パーティー

姉妹都市守谷の青少年はバイエルン州で天候にも恵まれ、素晴らしい日々を過ごしている。もちろん、観光にも色々とお出かけ、また、パーティーでは副市長他、ホストファミリーとゆっくりと食事をしながら話す時間も十分に持てた。

その一つは、モエリケ通りにあるバウアー氏夫婦の綺麗な大きな自宅に派遣団員、ホストファミリーを招待し日独BBQを行った。この日は、夜遅くまで20度以上の夏らしい一日で、生徒達は水泳用のプールに入って遊んでいた。(上記：写真) 同時にBBQグリルでは様々なご馳走が出来上がり、参加者は大いに食べて、大人達はビールを飲み楽しんでた。



Die Wieskirche war nur eines zahlreicher Ziele, das den jungen Japanern einen Eindruck von der Vielfalt bayerischer Kultur und Tradition vermittelte.

Junge Japaner lernen Bayern jenseits der Postkartenidylle von Neuschwanstein kennen

Jugendliche aus der Partnerstadt Moriya kommen auf den Geschmack deutscher Kultur

Mainburg. Der deutsch-japanische Austausch zwischen den beiden Partnerstädten Mainburg und Moriya ist um ein Kapitel reicher. In der vergangenen Woche weilten zwölf Jugendliche aus Fernost in der Hopfenstadt, wo sie Land und Leute kennen- und lieben lernten. Natürlich durfte der bei den Japanern als Muss empfundene Besuch auf Schloss Neuschwanstein nicht fehlen. Die jungen und aufgeschlossenen Gäste aus dem Lande Nippons lernten aber schnell, dass Bayern weit mehr ist als ein Postkartenidyll à la König Ludwig II.

Zwölf Jugendliche und zwei Betreuer sowie die Reiseleiterin aus der Partnerstadt Moriya sowie alle Mainburger Gastfamilien hatte Bürgermeister Josef Reiser vorvergangenem Freitag zum Auftakt des Besuchs im großen Sitzungssaal willkommen geheißen. Nach einer kurzen Begrüßungsrede, die von Dr. Osamu Omuro, dem ehemaligen Chefarzt am Mainburger Krankenhaus, ins Japanische übersetzt wurde, und einem gemeinsamen Foto an der Rathaustrampe wurden die Jugendlichen an ihre Gastfamilien übergeben.

Die jungen Gäste sollten in den folgenden Tagen die deutsche Kultur und das Leben in den Familien kennen- und vielleicht sogar lieben lernen. Am ersten Abend trafen sich alle japanischen und deutschen Gäste bei der Familie Bauer zur Willkommensparty (wir berichteten). Alle beeindruckte der weitläufige und sehr schön angelegte Garten, und so mancher suchte an diesem herrlich warmen Sommerabend noch Abkühlung in dem tollen

Schwimmteich. Der Grillabend dauerte bis spät in die Nacht.

Der Samstag und der Sonntag gehörten ganz den Familien. Die Gastgeber unternahmen mit den ihnen anvertrauten Schützlingen an diesen beiden Tagen sehr viel, zeigten den Austauschschülern das Leben und den Alltag in einer Familie. Sie unternahmen zusammen aber auch den einen oder anderen Ausflug. Mitunter wurde es auch ganz sportlich. So nahm die japanische Austauschschülerin Kojima Kaede mit ihrem deutschen Gastkind Anna Hofbauer sogar am 24-Stunden-Schwimmen teil und erhielt für ihre hervorragende Leistung im Wasser eine „Bronzemedaille“.

Am Montag hieß es früh aufstehen, denn der Bus zum Schloss Neuschwanstein fuhr bereits um 7 Uhr ab. Der Zeitpunkt hätte nicht besser gewählt sein können. Denn erst wenige Tage zuvor war das während der Sanierung des Märchenschlosses aufgebaute Gerüst wieder verschwunden. Damit bot sich ein mehrere Jahre so nicht möglicher Blick auf das malerische Bauwerk. Eine japanische sowie eine deutsche Führung im Schloss begeisterte alle Besucher. Nachdem alle pünktlich am Ausgangspunkt eingetroffen waren, fuhr die Reisegruppe nach Steingaden zum Mittagessen und zur Besichtigung der Wieskirche. Am späten Nachmittag trat die Gruppe nach einem erlebnisreichen Abstecher ins Oberbayerische die Heimreise nach Mainburg an.

Der Dienstag gehörte wieder ganz den Gastfamilien. Am Mittwochvormittag fuhren die Gäste und die Gastfamilien mit dem Bus nach Kelheim und von dort mit dem Schiff „Ludwig“ von Kelheim zum Kloster Weltenburg. Der traumhafte Blick auf die Befreiungshalle begeisterte alle.

Am Nachmittag trafen sich alle japanischen Jugendlichen sowie die Betreuer zur Probe des Abschiedsprogramms im Konzertsaal der Sing- und Musikschule. Kurz nach 17 Uhr begann dort die Abschiedsfeier. Nach einer kurzen Begrüßung von Vizebürgermeisterin Hannelore Langwieser, die den im Urlaub weilenden Rathauschef Josef Reiser vertrat, führten die japanischen Gäste verschiedene Spiele und Tänze vor, die sie dann mit den deutschen Jugendlichen ein zweites Mal zeigten.

Amtierende Bürgermeisterin Hannelore Langwieser bedankte sich bei den japanischen Gästen für ihre angenehme, höfliche, freundliche und disziplinierte Art sowie bei den deutschen Gastfamilien für ihre Bereitschaft, Jugendliche aus der Partnerstadt Moriya bei sich aufzunehmen. Das gemeinsame, hervorragende Essen auf der Veranda der Sing- und Musikschule rundete eine unvergessliche Woche ab.

Am Donnerstag früh um 6 Uhr hieß es dann endgültig Abschied nehmen. Die japanischen Jugendlichen trennten sich nur schwer von ihren lieb gewordenen Gastfamilien, so manche Abschiedsträne konnte nur mühsam verdrückt werden – und das auf beiden Seiten. Einige Jugendliche versprachen noch beim Einstieg in den Bus: „We will come back.“ Pünktlich um 6.30 Uhr startete der Bus zum Münchner Flughafen. Exakt um 10.05 Uhr hob der Flieger nach Tokio-Narita ab.

Eine E-Mail, eingegangen am Montag früh im Rathaus, teilte mit, dass alle gut in Moriya angekommen, aber kein bisschen müde seien. Vielmehr waren die jungen Deutschlandreisenden noch immer aufgekrazt und haben sogleich und enthusiastisch von Mainburg, ihren Gastfamilien und den Erlebnissen in Europa erzählt.

日本の若者は有名なノイシュヴァンシュタイン城

以外のバイエルン州も体験した

姉妹都市守谷市の青少年はドイツ文化に触れた

マインブルク市守谷市の日独交流が再度行われました。先週12人の青少年がホップの市(＝マインブルク市)に来市し、ドイツとドイツ人の生活を体験した。もちろん、ドイツに来る日本人なら誰しもノイシュヴァンシュタイン城(ルートヴィヒ二世により建築)が行ってみたい場所に挙げるところではあるが、団員達はマインブルクに来市して、バイエルン州にも色々な魅力があると理解した。

訪問団が金曜日、大会議室に来庁した。ライザー市長は夏季休暇中のため、ラングウィーザー・ハネローレ副市長が姉妹都市守谷市の青少年12名、引率者2名、添乗員1名、そしてマインブルク市のホストファミリーの皆さんに歓迎の言葉を伝えた。また、対面式でマインブルク病院の元医長である大室オサム博士に通訳をお願いした。

市役所前の階段で皆さんと一緒に撮った写真の後、ホームステイが始まった。

若者はその後、ドイツ文化とドイツの日常生活を体験し、前回の記事でも述べたとおり、おそらくドイツのことを好きになるだろう。初日の夕方には日本人とドイツ人の皆さんがバウアー氏宅で、ウェルカムパーティーに参加した。綺麗で大きな庭なので、参加者は驚いていた。夏の暖かい夜であったのでプールで泳いでいた人も大勢おり、夜遅くまでのバーベキューパーティーになった。

土日の二日間は各ホストファミリーで過ごし、それぞれ受け入れた青少年とドイツの家庭、日常生活を体験した。もちろん、観光にも出掛け、スポーツに参加した団員もいた。日本人の派遣団員の小島かえで氏はホストシスターのホーフバウアー・アナ氏と共に水泳の24時間レースに参加し、優れた結果＝銅メダルを獲得した。

月曜日のノイシュヴァンシュタイン城への観光は早朝7時の出発となった。

団員達は綺麗なお城の姿を見ることが出来て非常にラッキーであった、なぜならば、ノイシュヴァンシュタイン城「メルヘンのお城」を修復させようと数年間工事のため外観を損ねていた建築足場が数日前になくなったのだ。

ノイシュヴァンシュタイン城の見学は日本語のツアーもあり、団員達も理解していた。その後、ランチとヴィース巡礼教会の観光をしにシュタインガーデンへ移動した。オーバーバイエルンの色々の観光が出来た後、夕方にマインブルクに戻った。

火曜日については、また、ホストファミリーとともに過ごす日であった。

水曜日の午前は派遣団員とホストファミリー達とでバスで、ケールハイムに行き「ルートヴィヒ」という船に乗りウェルテンブルク修道院まで、ベフライウングスハレという国民記念碑を右手に見ながらドナウ川クルーズを楽しんだ。

午後は青少年と引率者がマインブルク音楽学校のコンサートホールに集まり、フェアウェルパーティーの練習を行った。

夏休みを取っているライザー市長の代理、ラングウィーザー・ハネローレ副市長の短い挨拶後、17時過ぎにフェアウェルパーティーは始まった。日本人の若者は様々なゲーム・ダンスを行い、ドイツのホストファミリーの皆さんとゲーム等を楽しんだ。

副市長は最後にも挨拶をし、団員達の丁寧さ、親切さ、規律の良さに感謝した。また、姉妹都市守谷の青少年を自宅に受け入れたホストファミリーにも感謝をした。

忘れられない一週間の最後に皆さんと一緒に音楽学校のベランダで美味しく夕御飯を食べた。

木曜日の早朝、6時はお別れの時間であった。日本人の青少年は仲良くなったホストファミリーと別れなくなさそうと、抱き合っている姿が見られ、団員達もホストファミリーも涙を流していた。何人かの青少年はバスに乗ったら「We will come back」と約束した。時間通り6時30分にバスがミュンヘン空港へ出発した。また、10時5分に成田空港への飛行機が出発した。

次の月曜日「団員全員が無事に帰って来ました。全然眠くなさそうだ。」というメールがマインブルク市役所に届いた。むしろ、若者たちは上機嫌ですぐにマインブルク、ホストファミリー、ヨーロッパの経験を話した。

写真：日本人の若者は、観光地のひとつヴィース巡礼教会ばかりではなく、多様なバイエルン州の文化と伝統に触れた。



編集後記

今回で23回目となる守谷市青少年海外派遣事業。今回の派遣国はフランス（パリ）、ドイツ（ミュンヘン、マインブルク）とヨーロッパの異なる2つの国を訪れた青少年の皆さんは、フランス、ドイツとの雰囲気の違い、今までにないような体験や感動で価値観が変わったことと思います。中でもホームステイでの経験は皆さんがこの報告書に書かれたように、本当のドイツ、ドイツ語、特に英会話を肌で感じたことでしょう。

今年度の派遣団員の皆さんは、事前研修当初、人の話を聞くように、相槌、相手に意思が伝わるようにと、何度も注意をされていたことを思い出します。

その後の事前研修では、フェアウェルパーティーで着用するポロシャツのデザインや披露するダンス（Kyary Pamyu Pamyu の Kyary ANAN や High School Musical “We’re all in this together”）を自分達で振り付けを考え、繰り返し練習していたこと、ドイツ語の練習を真剣に取り組んでいたこともあり、フェアウェルパーティーでのパフォーマンスやホストファミリーと一緒に行った雑巾がけリレーを含め、大変盛り上がったと聞いています。

帰国後の事後研修では、皆さんの顔つきも変わり、少し大人になった気がします。MIFA（守谷市国際交流協会）が行った夏祭りの出店の手伝いにも積極的に参加し、今後の活動が楽しみです。団員の皆さんには参加した仲間との交流はもちろんのこと、遠く離れたドイツ、マインブルクの新しい家族・友達との交流を是非、続けてほしいと思います。そして、この事業で得た『心のふれあい』を忘れずに次のステップに役立てていただき、活躍されることを願っています。

最後になりましたが、団長として研修から積極的に御尽力いただきました、渡邊さん、そして団員の選考から研修まで御協力いただきました、守谷市国際交流協会の皆様に心から感謝申し上げます。